



角笛会会報

ホームページ: <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/%7Etsuno.hp/index.shtml>

発行所

日本大学生物資源科学部
獣医学科角笛会

〒252-8510

藤沢市亀井野 1 8 6 6

0 4 6 6 - 8 4 - 3 3 8 6



巻頭のご挨拶

角笛会会長 中川 秀 樹 (昭和40年卒)

日本大学生物資源科学部獣医学科は1907年に創立された東京獣医学校を祖にして来る年に100周年を迎えます。母校を巣立った獣医師は、明治、大正、昭和、平成という悠久の時代の獣医事に貢献し、社会の付託に応えてまいりました。

人と物が短時間で行き来する国際化した今日では、人と動物の共通感染症の防御、食の安全確保、家畜伝染病の防御と家畜衛生の管理指導、家畜の群健康管理、生産医療、個別治療を併せた群獣医療 (Population medicine)、家族と同等の立場にある動物の医療、補助犬への支援、野生動物救護と希少動物保護並びに繁殖研究など獣医師に課せられる社会の負託は多岐に亘っております。

日本大学はこの様な社会要請に応える獣医学教育を行うために、動物医科学研究センターの設立、動物病院の拡充と高度医療機器の導入、新たな臨床実習施設と臨床系研究室の建設など学内施設の整備充実を図り、平成17年度獣医師国家試験では94%の合格者を輩出いたしました(私立大学第1位)。

角笛会は卒業生会員と在校生会員で組織されており、新入生歓迎会、卒業式学園祭、学術講演会、日本大学獣医学会、臨床研究助成など多岐に亘り学生と卒業生の絆を深めております。今後も各界で活躍されている同窓生の親睦親交の拠り所として情報伝達、教育現場との連携支援に向けた活動を続けると共に、今後はHPを通じて校友が絆を育めるよう整備を進めてまいります。

また、昨年度の総会で日本大学医療系同窓・校友学術講演会に獣医学科同窓会として正式に加わり、講演会を担うことに決定いたしました。平成18年度は獣医学科が当番として日本大学会館で9月30日に開催され、本学から渡辺敏教授が「絶滅の危機に瀕しているパンダを救えるか」と題して御講演をされました。

平成19年10月13日(土)に藤沢キャンパスで実施予定の100周年記念事業に向けて、幹事会の中に記念誌作成委員会、名簿作成委員会、記念式典委員会を立ち上げ準備を進めております。今後とも会員各位の御支援御鞭撻を心より御願い申し上げます。



ご 挨 拶

獣医学科主任 金 山 喜 一 (昭和54年卒)

中川秀樹会長をはじめ、角笛会の諸兄姉の皆様には平素から本学科の獣医学教育ならびに研究、診療にご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

本学では毎年150名程の卒業生がおりますが、昨年度の獣医師国家試験は本学から162名が受験し、

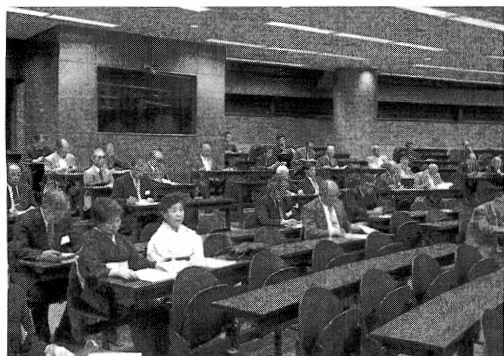
153名が合格しました。合格率は94.44%で合格者数では全国(全国公立私立大16校を含めて)第1位、合格率では全国第2位(私立大学では第1位)でした。獣医学科ではここ数年、年4回の国家試験模試と試験後の解説ならびに国家試験に対応した授業の充実など積極的な努力を行ってまいりました。今回の結果は受験生ならびに教員の熱意が実を結んだものと信じています。

本学科は昨年度に動物病院の大幅な増築拡張ならびに動物医科学センターなど施設の拡充をはかってきました。それに引き続き今年度は、先日竣工した新9号館ならびに年度末より6号館の全面的な改修に入ります。これはいわゆるハード面の充実を期すものです。それに対してソフト面では教員の充実をめざし、新たに上地正実助教授(獣医内科学)、大滝忠利専任講師(獣医臨床繁殖学)、安井 禎助手(獣医解剖学)、滝山直昭助手(獣医内科学)、丸山治彦助手(獣医臨床病理学)、加藤亜香根副手(学科事務室)の先生方が着任いたしました。新任の先生方には大いに獣医学科を盛り上げていただけるよう期待いたしております。

このように日本大学獣医学科では入学後の学生へ対する獣医学教育ならびに人間教育にできるだけの時間を注ぎ込み「日本大学に入学して良かった」と思いながら卒業できるように日々努力をおこなっています。そのような在学中の満足感が卒業後の角笛会の結束力につながるものと考えています。これからも教員ならびに角笛会の協力をもって本学科が我が国を代表する大学になるように努力をして行こうと思っております。最後になりましたが、角笛会のますますの隆盛と皆様のご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

平成18年度 角笛会総会開催

事務局長 丸 山 総 一



平成18年6月3日(土)、午後14時10分から日本大学湘南校舎第4講義室で、平成18年度の角笛会総会が開催されました。昨年度と同様に、午前中は第44回日本大学獣医学会、午後からは角笛会という合同開催のスタイルでした。角笛会の幹事会、総会では先ず事務局より提出された平成17年度の事業報告、会計報告が、山村穂積監事の監査報告の後、承認されました。続いて平成18年度事業計画案、同予算案が審議され、承認、成立致しました。平成18-19年の新役員候補者は前期と同様(会長：中川秀樹、副会長：岩田穎三、田中茂男、長尾壮七)で、数名の常任幹事の変更がありましたが全て承認されました。また、東北海道支部(会員数65名、会長：川崎信由S36年卒)が新たに発足・承認されました。本年度のANMEC(日本大学動物病院)支援基金(30万円)は、坂井学先生(内科学)の「Gene Chipによる肝炎発生犬における遺伝子発現の網羅的解析」に授与されました。

新支部長の就任に伴う幹事候補と今年度卒業のクラス幹事井上快氏、中島裕子氏がそれぞれ承認されました。総会終了後、今年の角笛会功労者8名に記念品目録とともに表彰状が授与されました。また、午後4時30分から本館ガレリア階のスエヒロにて催された懇親会には、茂澤杲校友されました会長をはじめ同僚校友会の来賓の方々、獣医学科教員を含め約70名に参会いただきました。懇親会は和やかな雰囲気うちに進行し、会場のあちらこちらで談笑の輪ができていました。

総会資料

平成17年度一般会計収支決算報告書

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

(差 異△) (単位:円)				
科目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 支部会費	1,600,000	961,000	639,000	961人×1,000円
II. 新入会費	1,200,000	1,325,000	△ 125,000	校友会本部
III. 学部校友会交付金	200,000	200,000	0	学部より
IV. 雑収入	973	847,294	△ 846,321	酒井先生祝賀会費・利息等
V. 前年度繰り越し額	2,209,027	2,209,027	0	H16年度
合計	5,210,000	5,542,321	△ 332,321	

(差 異△) (単位:円)				
科目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 経常費	2,960,000	2,047,539	912,461	
1. 会合費	500,000	59,850	440,150	会議等
2. 交際費	500,000	219,900	280,100	支部総会等祝い金
3. 旅費交通費	900,000	644,550	255,450	支部総会等旅費
4. 通信運搬費	300,000	173,748	126,252	通信料・郵送料
5. 事務局運営費	760,000	949,491	△ 189,491	給食・事務用PC・消耗品等
II. 会報費	700,000	603,435	96,565	会報21号
III. 名簿管理費	100,000	0	100,000	業務委託 名簿費等
IV. 卒業生記念品費	100,000	144,585	△ 44,585	平成17年度卒業生他
V. 学舎補助費	200,000	200,000	0	第43回日本獣医学会
VI. 補助費	100,000	100,000	0	日本大学医療系同窓・校友連絡会
VII. 組織拡充費	200,000	89,880	110,120	HP作成費
VIII. 特別会計I	300,000	300,000	0	名簿会計*1
IX. 特別会計II	300,000	300,000	0	将来事業基金*2
X. 予備費	250,000	173,315	76,685	表彰者記念品代・懇親会補助
合計	5,210,000	3,958,754	1,251,246	三菱銀行

*1 特別会計Iへ *2 特別会計IIへ

平成17年度 総支出合計 3,958,754 円
平成17年度 次期繰越収支差額 1,583,567 円
計 5,542,321 円

支出の部内訳	
V. 卒業生記念品費内訳	平成17年度卒業生 男子77名 女子77名 合計154名分
保管状況	三菱東京UFJ銀行(年会費) 295,403 円 郵便局(年会費) 1,216,690 円 手持現金 71,474 円 合計 1,583,567 円

「酒井健夫教授の学部長就任を祝う集い」 収支決算報告書

(単位:円)		
科目	決算額	備 考
収入合計	1,980,000	参加者136名(関係者含む)お祝い含む
(単位:円)		
科目	決算額	備 考
支出合計	1,132,714	会場使用料等

「酒井健夫教授の学部長就任を祝う集い」 収支差額

847,286 円
余剰金は一般会計に補充

平成17年度特別会計I 収支決算報告書【名簿会計】

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

(差 異△) (単位:円)				
科目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	(平成17年度分)
II. 雑収入	3,440	36	3,404	利息
III. 前年度繰越額	4,466,560	4,466,560	0	
収入合計	4,770,000	4,766,596	3,404	

(差 異△) (単位:円)				
科目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 名簿作成費	4,770,000	0	4,770,000	
II. 雑支出	0	0	0	
支出合計	4,770,000	0	4,770,000	

平成17年度 次期繰越収支差額 4,766,596 円

保管状況 三菱東京UFJ銀行(特別会計I) 合計 4,766,596 円

平成17年度特別会計II 収支決算報告書【支援基金・将来事業資金】

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

(差 異△) (単位:円)				
科目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 将来事業繰入金	300,000	300,000	0	(平成17年度分)
II. 雑収入	9,522	56	9,466	利息等
III. 前年度繰越額	6,890,478	6,890,478	0	
収入合計	7,200,000	7,190,534	9,466	

(差 異△) (単位:円)				
科目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 研究助成費(ANMEC支援)	500,000	0	500,000	
II. 外国専門医招聘料	150,000	0	150,000	
III. 予備費	0	0	0	
IV. 将来事業基金	6,550,000	0	6,550,000	
支出合計	7,200,000	0	7,200,000	

平成17年度 次期繰越収支差額 7,190,534 円

保管状況 三菱東京UFJ銀行(特別会計II) 合計 7,190,534 円

平成17年度懇親会費 収支決算報告書

(差 異△) (単位:円)				
科目	予算額	決算額	差 異	備 考
懇親会参加費	400,000	290,000	110,000	5,000円/54人、お祝い
(差 異△) (単位:円)				
科目	予算額	決算額	差 異	備 考
懇親会費	400,000	400,000	0	

平成17年度 収支差額 -110,000 円

赤字分は一般会計で補充

平成18年度一般会計 予算（案）
平成18年4月1日から平成18年3月31日まで

(増 減△) (単位：円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 支部会費	1,600,000	1,600,000	0	1600名×@1,000
II. 準会費	1,200,000	1,200,000	0	校友会本部
III. 学部校友会交付金	200,000	200,000	0	学部より
IV. 雑収入	6,433	973	5,460	預金利息等
V. 前年度繰り越し額	1,583,567	2,209,027	△ 625,460	
収入合計	4,590,000	5,210,000	△ 620,000	

平成18年度予算 収入の部合計 4,590,000 円

(増 減△) (単位：円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 経常費	2,160,000	2,960,000	△ 800,000	
1. 会議費	200,000	500,000	△ 300,000	会議等
2. 交際費	300,000	500,000	△ 200,000	支部総会等祝い金
3. 旅費交通費	700,000	900,000	△ 200,000	支部総会等旅費
4. 通信運搬費	200,000	300,000	△ 100,000	通信
5. 事務局運営費	760,000	760,000	0	給仕、ソフト等
II. 会報費	200,000	700,000	△ 500,000	会報22号
III. 名簿管理費	300,000	100,000	200,000	業務委託等
IV. 新入生・卒業生記念品費	400,000	100,000	300,000	平成18年度新入生・卒業生
V. 褒賞費	200,000	0	200,000	功労賞・角笛会長賞
VI. 学会補助費	200,000	200,000	0	第44回日本獣医学会
VII. 補助費	100,000	100,000	0	日本大学獣医系同窓・校友連綿会
VIII. 組織拡充費	100,000	200,000	△ 100,000	情報ネットワーク調査費
IX. 特別会計Ⅰ	300,000	300,000	0	名簿作成繰入金
X. 特別会計Ⅱ	300,000	300,000	0	将来事業繰入金
XI. 予備費	330,000	250,000	80,000	
支出合計	4,590,000	5,210,000	△ 620,000	

平成18年度予算 支出の部合計 4,590,000 円

平成18年度特別会計Ⅰ 予算【名簿会計】（案）
平成18年4月1日から平成18年3月31日まで

(増 減△) (単位：円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
II. 雑収入	3,404	3,440	△ 36	預金利息等
III. 繰越額	4,766,596	4,466,560	300,036	
収入予算合計	5,070,000	4,770,000	300,000	

(増 減△) (単位：円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 名簿作成繰入金	5,070,000	4,770,000	300,000	
II. 雑支出	0	0	0	
支出予算合計	5,070,000	4,770,000	300,000	

平成18年度特別会計Ⅱ 予算【支援基金・将来事業資金】（案）
平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

(増 減△) (単位：円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 将来事業繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
II. 雑収入	9,466	9,522	△ 56	預金利息等
III. 繰越額	7,190,534	6,890,478	300,056	
収入予算合計	7,500,000	7,200,000	300,000	

(増 減△) (単位：円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 研究助成費	500,000	500,000	0	ANMEC支援基金
II. 外国専門医招聘料	0	150,000	△ 150,000	
III. 特別事業費	1,000,000	0	1,000,000	100周年記念式典準備
IV. 将来事業基金	6,000,000	6,550,000	△ 550,000	
支出合計	7,500,000	7,200,000	300,000	

平成18年度懇親会費 予算（案）

(増 減△) (単位：円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
懇親会参加費	400,000	400,000	0	5,000円/人

(増 減△) (単位：円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
懇親会費	400,000	400,000	0	

動物病院だより

ANMECセミナー開催報告

平成17年度 ANMECセミナー開催（第118回～第120回）

第118回（H18.1.30開催）参加者110名（外部11名・内部99名）
教育講演；「よく遭遇する泌尿器疾患」
鯉江 洋（総合臨床獣医学）

第119回（H18.2.20開催）参加者104名（外部10名・内部94名）
教育講演；「水頭症」
北川 勝人（総合臨床獣医学）

第120回（H18.3.27開催）参加者74名（外部4名・内部70名）
教育講演；「イヌニキビダニ症について」
野上 貞雄（医動物学）
加納 壘（獣医臨床病理学）

平成18年度 ANMECセミナー開催（第121回～第127回）

第121回（H18.4.17開催）参加者165名（外部12名・内部153名）
教育講演；「犬の慢性気管支炎」
山谷 吉樹（総合臨床獣医学）

第122回（H18.5.22開催）参加者157名（外部13名・内部144名）
教育講演；「門脈体循環シャント」
浅野 和之（獣医外科学）

第123回（H18.6.12開催）参加者110名（外部21名・内部89名）
教育講演；「犬の尿石症」

Dr.S. Dru Forrster, DVM MS DACVIM
（カンザス州立大学 非常勤講師）

第124回（H18.7.24開催）参加者26名（外部5名・内部21名）
教育講演；「現在の歯科治療」
大場 茂夫（総合臨床獣医学）

第125回（H18.9.25開催）参加者110名（外部9名・内部101名）
教育講演；「緑内障の内科治療」
滝山 直昭（獣医内科学）

第126回（H18.10.16開催）参加者180名（外部8名・内部172名）
教育講演；「消化器疾患の診断アプローチ」
Dr.Rance Sellon
（ワシントン州立大学 小動物内科専門医）

第127回（H18.11.20開催予定）
教育講演；「神経学的検査法」
北川 勝人（総合臨床獣医学）

獣医学科の近況

【新9号館竣工】

10月19日(木)に新9号館が竣工いたしました。動物病院の隣に位置する新9号館には臨床系5研究室(獣医外科学、獣医内科学、獣医臨床繁殖学、獣医放射線学、獣医臨床病理学)ならびに実験室が入ります。また念願であった外科学実習と内科学実習の同時進行が可能となりました。

【獣医師国家試験】

第57回獣医師国家試験には、日本大学獣医学科からは162名が受験し、153名が合格しました。合格率は94.44%で合格者数では全国(全国公立私立大16校を含めて)第1位、合格率では全国第2位(私立大学では第1位)でした。獣医学科ではここ数年、年4回の国家試験模試と試験後の解説ならびに国家試験に対応した授業の充実など積極的な努力を行ってまいりました。今回の結果は受験生ならびに教員の熱意が実を結んだものと信じています。

【表彰、受賞】

平成17年度卒業生のうち優等賞が中嶋眞弓さん、学部長賞が丸山総一教授(対象:日本獣医学会賞の受賞)、伊藤美絵子さん、秋葉由紀さん、日本獣医師会会長賞が紫村眞佐子さん、角笛会会長賞が渡邊彩子さん・井上奈々さんにそれぞれ授与されました。

【博士(獣医学)の学位取得者】

課程博士:兼清 優氏、坂入 旭氏、平井明香氏、庄司洋子氏、安井 禎氏

論文博士:斎藤久美子氏、山本明彦氏

【退職】

佐々木栄研究所教授(獣医内科学)、椎橋 孝専任講師(医動物学)がご退職されました。

【人事・昇格】

大場茂夫専任講師が総合臨床獣医学研究室に、鯉江 洋専任講師と坂井 学助手が獣医内科学研究室にそれぞれ異動しました。

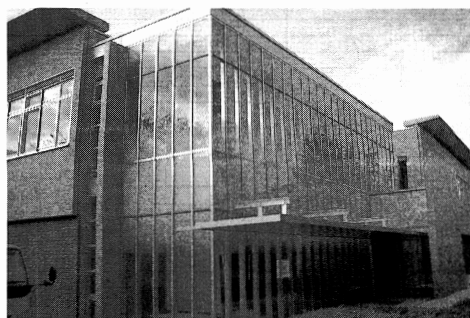
■新 任



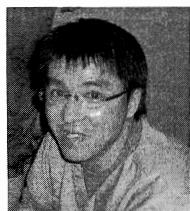
(獣医内科学研究室)
上地正実助教授

この春に青森の北里大学から日本大学の獣医内科学研究室に移動してきた上地正実です。生まれは沖縄県那覇市、市内の高校を卒業後、麻布大学獣医学部に入学致しました。麻布大学では3年生から第一外科学講座に入室し腎臓と透析についての卒業論文を書きました。その後、麻布大学大学院に進学し、腎障害に関する研究にて学位論文を提出して学位を取得致しました。大学院修了後、Harvard Medical Schoolの付属施設のNew England Regional Primate Research Center、Laboratory of Cardiovascular Medicineの研究員の募集があり、渡米することとなりました。アメリカへはトランク1個と段ボール箱1個だけだったのでアパートに入居した時には部屋の広さと自分の存在のアンバランスさに不安をおぼえました。まもなく研究生活がスタートしましたが、英語はなんとか生活できる程度だったので、さすがに仕事のディスカッションには加われず、かなりプレッシャーを感じる毎日でした。加えて、手元のJ1ビザの期限は6ヵ月となっており、成果を上げることができなければいつでも解雇させられる状態でした。とにかく早く仕事を覚えて評価してもらうことに必死でした。その甲斐もあり、渡米後8ヵ月には学会へ発表することになりましたが、英語で発表したことはなく、また、質疑応答に耐えられる英語力はなかったもので、発表時には原稿がしわしわになるほど手に汗をにぎっていたことを覚えております。その後も6ヵ月毎にビザを更新しながら自分の提案したテーマで研究をすることもでき、研究員から助手になりました。振り返ってみますと、背水の陣で仕事に取り組んだことが結果としてよかったと思っております。渡米後2年半が経過した時に北里大学の教員募集の話があり、迷った末に北里大学にお世話になることとなりました。青森県十和田市はのんびりした町で、楽しく過ごすことができました。その後、北里大学で9年間を過ごし、この度日本大学にお世話になることになりました。

現在は、心臓と腎臓を中心とした循環器の診断と治療に取り組んでおります。循環器の診断では心臓超音波、神経内分泌因子の測定を中心とし、治療では利尿薬、血管拡張薬、強心薬、β遮断薬の使い方について研究を進めております。また、僧帽弁閉鎖不全と先天性心疾患の外科的整復についても成果がでてきております。腎不全の症例に対しては透析も可能であります。これまでに与えて頂いた機会の中で培ってきた知識と技術をよりよい形で貢献



することを目標としていきたい所存でございます。



(獣医臨床繁殖学研究室)
大滝忠利専任講師

角笛会会員の皆様、はじめまして。平成18年4月より獣医臨床繁殖学研究室で専任講師として着任いたしました大滝忠利です。私の出身大学は酪農学園大学で、獣医臨床繁殖学教室に所属し、そのまま大学院に進み豚の胎子胎盤機能に関する研究を行っていました。その後、中標津にある北海道立根釧農業試験場に勤務し、約6年間乳牛の繁殖成績低下の問題解決に向けた研究に取り組んできました。この間、実際の酪農生産現場に入っの農家調査や試験場内で飼養されている約70頭の搾乳牛を用いて、畜産学的な観点から研究を進めてまいりました。このように卒業後は研究センターで臨床経験の不足している私ではありますが、現場で役に立つような研究を行っていききたいと思います。また、獣医学生教育としては、獣医療だけでなく、今まで培ってきた畜産学的な手法も併せて学生たちに伝えることができると考えています。実は、私の出身は神奈川県ですが、北海道生活が16年になり北海道弁がすっかり染み付き、学生たちからは北海道出身と誤解を受けているようです。日本大学では、主に乳牛の繁殖と栄養に関する研究を展開していきたいと考えています。まだまだ未熟者で、不慣れな所が多々あるかと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



(獣医内科学研究室)
滝山直昭助手

角笛会の皆様、初めまして。この度、獣医内科学研究室の助手の任を拝命しました、滝山直昭と申します。

私は平成14年に酪農学園大学を卒業した後、平成18年に横浜市立大学大学院を修了し現職に至ります。酪農学園大学の獣医外科学教室(現在は伴侶動物医療学教室に統合)の学生時代から獣医眼科を専門に勉強させて頂いておりまして、酪農学園大学の故・小谷忠生先生と、私の父である滝山昭の2名の獣医眼科医を中心に諸先生方から学び、獣医眼科学の奥深さに目覚めました。酪農学園大学卒業後には横浜市立大学医学部の大学院では視覚器病態学(旧:眼科学)講座に所属し、人および犬に発症するVogt-小柳-原田病の研究をメインテーマに人の眼科学と獣医眼科学、基礎眼科学を学んで参りました。

私の師である小谷先生が、犬猫の眼科疾患のみならず、馬、牛、海洋動物など幅広い動物種を対象とされておられ、眼という臓器を専門にする獣医師の姿に感銘を受け、そのスタイルを継承して行きたいと思っております。

まだまだ未熟ではありますが、私の知識や経験が日本大学と角笛会の先生方のお役に少しでも役立てられるよう精進しております。御指導御鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



(獣医臨床病理学研究室)
丸山治彦助手

卒業大学(大学院): 日本大学大学院獣医学研究科獣医学専攻博士課程 総合臨床獣医学研究室
前職場: 個人開業での代診
研究テーマ: 小動物の止血凝固異常
趣味: 釣り

私は、この度、獣医臨床病理学研究室に助手として勤務させて頂くことになりました丸山治彦と申します。

私は静岡県沼津市に生まれ、高校を卒業するまでの18年間、富士の雄姿を望み育ってきました。高校卒業後、日本大学農獣医学部獣医学科に入学し、学部四年生からは獣医外科学研究室に所属しました。平成13年に学部卒業後、同大学大学院獣医学研究科に進学、総合臨床獣医学研究室に所属し、小動物の止血凝固異常症、特に播種性血管内凝固症候群の発現機序に関する研究を行ってきました。そして、大学院修了後は1年間開業医院に勤務の後、本年4月から現職に就きました。

現職では、長谷川篤彦教授および加納聖専任講師のもと、臨床病理学実習と6年次に開講されている本学付属動物病院での演習を担当させて頂いております。また、動物病院において医局員として診療にも携わせて頂いております。研究面に関しては、大学院時代の研究題目である止血凝固異常症に関する分野を中心に進めています。しかし、今後は止血凝固分野に留まらず、その他の分野においても社会に貢献出来る研究を遂行したいと考えております。

最後に、最近の余暇の過ごし方についても少しだけ自己紹介させて頂きたいと思っております。忙しい毎日ではありますが時間に都合がつけば下手ながらも、のんびりと港の防波堤で釣りを楽しんでいます。

若輩ではありますが、獣医学の発展に微力ながらも寄与出来ればと尽力していきたいと考えております。また、診療活動だけでなく研究・教育を含む様々な局面で、角笛会の皆様には多々お世話になることもあると思っておりますが、どうぞご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



(獣医解剖学研究室)
安井 禎助手

卒業大学(大学院)：日本大学大学院 獣医学研究科 獣医学専攻博士課程 獣医解剖学研究室
研究テーマ：哺乳類皮膚の組織細胞化学的研究
趣味：野球、スキー

平成18年4月より獣医解剖学研究室の助手として着任しました安井 禎と申します。学部・大学院生から本学の獣医解剖学研究室に在籍し、解剖学ならびに組織学を学んできました。

解剖学は、動物の身体の仕組みを理解する上で、重要な基礎学間であると思います。地味ではありますが非常に奥が深く、一朝一夕でやり果せるものではありませんが、教えるという立場になったからには、より一層努力して多くの知識を身につけていかなければならないと思っています。また、これまでの解剖学を基礎にして、今後は各種検査あるいは外科的治療において必須である解剖学的あるいは局所解剖学的事項を取り上げた臨床解剖学についての教育も充実させたいと考えています。その為にも、自分自身がもっと解剖学の基礎を固めることが必須であり、ゆくゆくは小動物ならびに大動物臨床の現場に伺わせていただき、臨床の先生方にもご指導賜りたいと思っております。

研究においては、より専門的知識を習得するとともに、解剖学ならではの研究でありながら、他分野の先生方にも興味を持っていただけるような研究を展開していきたいと考えています。

若輩者ですが、日々の積み重ねを大事にし、本学獣医学科の発展に少しでもお役に立てるよう精進致しますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



(獣医学科事務)
加藤亜香根副手

卒業大学：日本大学 生物資源科学部 食品科学工学科
趣味：買い物、お菓子作り

この春、日本大学生物資源科学部食品科学工学科を卒業し、4月から副手として獣医学科でお世話になっております、加藤亜香根と申します。

食品の安全性、とりわけ食品添加物の分野に興味を抱いて本学に入学を決め、4年間の学生生活を過ごしてまいりました。昨年は食品衛生化学研究室で「残留農薬の多成分一斉分析法の確立」をテーマに、日々超臨界流体抽出装置・GC-MSと格闘し卒業論文を仕上げました。一度目を外に比べると本学はとても素敵な環境に恵まれていて、春の満開の桜並木や空気の澄んだ青空に映える富士山、毎年やってくるカモの親子、風が運ぶバラ・牛の香り、ダチョウがいるのも自慢でした。そんな四季を感じさせられる、自然あふれる学部が好きで、副手としてまたここに通えることをとても嬉しく思っています。

しかし、私は幼い頃から、ペットはもとより動物とほとんど縁の無い生活をして来ましたので、獣医学科への就任を知らされたときには、仕事に対する不安でいっぱいになりました。それでも学科の先生や先輩の方々に優しく迎えていただき、また働きやすい環境を整えていただき、大変感謝しております。一日も早くみなさんのお役に立てるよう努めて参る所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

■獣医学科入試・入学状況

選抜方法	募集人員	受験者数	合格者数	競争率
一般推薦 (公募制)	学部全体で 70名	69(45)	15(9)	4.6
一般推薦 (公募制・関連産業後継者)	学部全体で 22名	30(15)	12(7)	2.5
校友子女推薦 (公募制)	学部全体で 23名	9(5)	3(1)	3.0
本校試験 (第1期)	40名	1,819(750)	128(57)	14.2
本校試験 (第2期)	20名	929(410)	27(17)	34.4

()内は女子

■学年担任 (平成18年度)

- 1年次：丸山総一教授(獣医公衆衛生学)
佐藤雪太講師(実験動物学)
根本洋明助教授(数学)
- 2年次：泉對 博教授(獣医伝染病学)
伊藤琢也講師(獣医衛生学)
- 3年次：佐藤常男教授(獣医病理学)
大谷 功講師(獣医生理学)
- 4年次：津曲茂久教授(獣医臨床繁殖学)
加納 壘講師(獣医臨床病理学)
- 5年次：湯川真嘉教授(実験動物学)
大場茂夫講師(獣医内科学)
- 6年次：浅野隆司教授(獣医薬理学)
渋谷久助教授(獣医病理学)

◇求人のお願ひ◇

女子学生の増加に伴い、小動物臨床の勤務医を希望する者が増えています。会員からの求人申し込みは学部就職指導課ならびに6年次担任(浅野隆司教授、渋谷 久助教授)までご連絡ください。

トピックス

ワシントン州立大学夏期獣医臨床研修参加学生を引率して

臨床繁殖学研究室 津曲 茂久 教授

2006年度ワシントン州立大学夏期獣医臨床研修は平成18年7月24日～8月5日に実施されました。今年の参加者は5年次学生27名(女子17人、男子10人)で、引率教員として不肖私、渋谷 久助教授、山谷吉樹講師、山本美紀副手が同行しました。今年は馬コースの参加者が5人と少なかったために、馬コース希望者は第1週では小動物コース、第2週のみ例年より短縮された馬コースを受講することとなりました。小動物コースの授業科目は前年度とほぼ同様でありましたが、昨年、実習割合が少ないと評価された科目において実習の充実が見られた点は評価できると思われます。参加した学生の中にはかなり英語能力のある学生もあり、積極的に質問したり会話を楽しむ姿勢が見られました。この貴重な経験を生かして、近い将来海外雄飛して獣医学を学ぶ多くの卒業生が輩出されることを期待いたします。

中国成都大熊猫繁殖研究基地で第二回パンダ研修を実施

獣医生理科学研究室 渡部 敏 教授

本年度で第二回目となる「平成18年度 成都大熊猫繁育研究基地パンダ研修」が実施されました。予てより同基地でのパンダの保護、救済に協力してきた獣医化学 渡部 敏 教授を団長として、本年も8名(定員)の5年次学生が7月30日から18日間、絶滅の危機に瀕しているパンダの臨床、飼育、保護等の研修を受けてまいりました。中国のパンダ保護の拠点である成都大熊猫(パンダ)繁育研究基地(政府機関)で研修を修了した学生は、総合臨床獣医学実習2単位が認定されます。



写真説明：パンダの聴診
“ボクが2008年北京オリンピックのマスコットに選ばれたパンダの「晶晶」(一歳)です”

第5回日本大学医療系同窓・校友学術講演会に参加して

事務局長 丸山 総一(昭和57年卒)

平成18年9月30日(土)、日本大学会館大講堂において第5回日本大学医療系同窓・校友学術講演会が開催されましたので、その概要についてご報告いたします。プログラムは以下のとおりです。

開会の辞

中川秀樹(当番幹事 獣医学科校友会会長の挨拶)

来賓挨拶

小嶋勝衛(日本大学総長)

第1講演 日本大学医学部同窓会

演者：佐藤喜宣(杏林大学医学部法医学講座・教授)

ー臨床法医学の展望ー

第2講演 日本大学生物資源科学部獣医学科校友会(角笛会)

演者：渡部 敏(日本大学生物資源科学部獣医化学研究室・教授)

ー絶滅の危機に瀕しているパンダを救えるかー

第3講演 日本大学歯学部同窓会

演者：植田耕一郎(日本大学歯学部摂食機能療法学講座・教授)

摂食・嚥下機能回復の新しい考え方

ー本大学歯学部付属病院摂食機能診療科の臨床ー

第4講演 日本大学薬学部校友会

演者：芝 紀代子(文京学院大学保健医療技術学部・教授)

ーメタボリックシンドロームの検査値と

健康食品との係わり合いー

第5講演 日本大学松戸歯学部同窓会

演者：小方頼昌(日本大学松戸歯学部歯周治療学講座・教授)

ー真の歯周組織再生を目指してー

閉会の辞

山内 盛(日本大学薬学部校友会会長)

懇親会

この会は、医学、歯学、薬学および獣医学の各学部、学科の医療系の校友・同窓が集い、情報交換と交流の場として活用されています。今回は角笛会が当番幹事校として準備を進めてまいりました。当日は、中川会長の挨拶が始まり、ご来賓の小嶋勝衛総長からご挨拶をいただいた後、早速各学部の講演に入りました。医学部の佐藤先生は、法医学の立場から家庭内暴力や幼児虐待はどのように発生し、またどのように防止するかを、事例を挙げて分かりやすくお話下さいました。本学からは、渡部先生が、絶滅の危機に瀕しているパンダを救うためにどのようにしたらよいか、何が必要かを自ら考案した実験動物用の搾乳機を用いて奮闘している姿をご講演くださいました。歯学部の植田先生は、高齢者や障害者のリハビリテーションには手、足、体だけでなく、生きていくために最も重要な「食」に関わる摂食・嚥下機能の回復が何よりも重要であることを、臨床経験から、熱く語ってくださいました。

薬学部の芝先生は、飽食の時代を生きる現代人が陥りやすいメタボリックシンドロームにはどのようなものがあるか、また、どのようなになったら赤信号か具体的な数値を示して分かりやすくお話下さいました。最後に、松戸歯学部の方先生は、歯周組織の再生に関わる先端医療にはどのような方法があるか、それぞれの応用例を具体的に示していただけました。

多くの医療系校友・同窓が各方面で活躍され、また、最先端の研究をされているのを目の当たりにすると、日本大学の底力を感じずにはいられません。獣医学領域の中だけで仕事をしていると、となく視野が狭くなりがちです。多くの私立大学の中でも医学、薬学、歯学、獣医学がそろっている大学は日本大学を置いて他にありません。角笛会の皆様も、是非この会に参加して視野と知識を広げるとともに、交流の輪を広げてみてはいかがでしょうか？

角笛会関連記事(支部だより)

■新潟県支部だより

日本大学獣医学科校友会角笛会新潟県支部は、毎年新潟市で総会を開催し、平成18年度は7月16日(日)に会員33名の出席を得て開催されました。今回は昨年大幅な役員改選を行い、12期24年間の長年に渡り新潟県支部長を務められた宮田萬司顧問、11期22年間副支部長を務められた武田卯顧問の両氏には本部から表彰され、その表彰状贈呈式を行いました。

総会終了後、研修会を行い、中林大会員の学位論文講演、会員発表「テーマ：今、現場最前線では…」と題して、新潟県中央家畜保健衛生所藤原信子会員から「畜産安心ブランド生産農場認定に向けた取り組み」、新潟県保健環境科学研究所西川真会員から「ウイルス感染症防止への取り組み一食中毒・インフルエンザ」、西山動物病院西山栄一会員から「このごろの小動物医療」の発表がありました。会員同士の情報交換で研修会の時間が超過し、懇親会が延長となりましたが、日頃交流の少ない会員同士の情報交換に会場が盛り上がりしました。

例年、約半数の会員の出席ですが、女性役員の新規就任、若年層の参加呼びかけにより、若干参加者が増えました。新支部長の田中治男支部長新体制のもと、新潟県支部規約にあるように「会員相互の親睦をはかり、母校の発展に寄与すること」を目的に、今後とも参加したくなるような会の運営を実施し、更なる支部の活性化を図りたいと思っていますので御指導と御支援をよろしくお願いします。



平成18年度日本大学獣医学科校友会 角笛会新潟県支部 定期総会
平成18年7月16日(日) 新潟第一ホテル
(前列、左から4人目が宮田萬司顧問、
その右隣が田中治男支部長、その右隣が武田卯顧問)

■東北海道支部が発足しました

角笛会東北海道支部 事務局長 井上 寧洋(昭和56年卒、釧路地区NOSAI)

この度北海道で二つ目の支部、角笛会東北海道支部が発足しました。実は、当支部の発足には中標津での酪農実習が大きく関わっています。「中標津での酪農実習」と聞いて学生時代を思い出される方も多いことと思います。私が在学した昭和52年から56年当時、獣医学科の学生の大半が1年次または2年次の夏休みの1ヶ月間、道東の中標津町で酪農実習をしていました。真夜中過ぎに東京を発つフェリーに30数時間揺られて、たどり着いた実習先でのコンパクト乾草の積み上げや搾乳の助手それから運動会に道東観光など、辛かった事や楽しかった事色々ありましたが今となっては懐かしい思い出です。そして、この実習を契機に就職先を北海道内に決めた同窓生がたくさんいます。また就職後は、実習の引率で先生方が来道されるのに合わせて連絡を取り合い、内々で同窓会を開いて来ました。しかし昨年、平成17年をもって30年以上続いた中標津町での酪農実習が終了し、そんな機会も無くなってしまいました。酪農実習が終了すると母校との繋がりが希薄になるのではとの危機感から、同窓生の間に角笛会の支部を立ち上げようという気運が高まりました。そんな流れを受け、川崎信由支部長(昭和36年卒、日高牧場アニマルクリニック)を中心に役員一同で準備を進めて参りましたが、会員諸氏及び角笛会本部のご理解・ご協力により、東北海道支部第一回総会を行うことができました。

総会は平成18年7月29日(土)釧路市「アクアペール」において角笛会事務局長の丸山総一先生をお招きして行われ、会員32名中22名の参加がありました。川崎支部長の挨拶に始まり、来賓祝辞・祝電披露の後、榎谷雅文会員(昭和55年卒、北海道デーリィマネージメントサービス)を議長に選出しました。議長のスムーズな進行により会則・役員・予算・会費など全ての議案が満場一致で可決承認され、短時間のうちに総会を無事終了する事が出来ました。



続いて、丸山先生から母校の様子や入試制度の変更等について説明があり、さらにプロジェクターを用いて学内施設の紹介がありました。建物の新設ばかりでなく、MRI・CTスキャン・放射線治療装置等々、内部の機械設備の充実ぶりにはただ驚かされるばかりでした。母校に活気があるのは我々卒業生にとって心強い限りです。

懇親会ではそれぞれが自己紹介・近況報告などを行い、和気藹々とした雰囲気の中で楽しい時間を過ごす事が出来ました。会場を移した2次会・3次会にも丸山先生をはじめ多数の会員が参加し、上は昭和36年卒から下は平成18年卒まで世代を超えて交流を持つ事が出来ました。初対

面の会員が、同じ母校を持つというその事だけで世代・職場の違いを越えてうち解ける事が出来る、そんな様子を目の当たりにして同窓会の意義を再認識しました。

当支部は北海道の東側4地区、オホーツク・十勝・釧路・根室に在住する同窓生を会員としております。中標津での酪農実習は終了しましたが、東北北海道にはNOSAI・家畜保健所・動物病院・動物園・乳業会社・大学等にたくさんの同窓生がおります。近くにお越しの際はお気軽に声をかけて下さい。

角笛会関連記事(校友だより)

衛生の言葉の誕生と歴史1(全3回)

青木 蓉治(昭和36年卒)

1 医学大辞典に衛生の語句が

医療や、衛生行政に携わる関係者は、「衛生」という語句を折にふれ用いています。しかし、衛生の二文字の語句を単独で用いる例が少ないのでは、と思います。

例えば、衛生を用いる場合においては、文書や、会話で「・・・衛生管理・・・」「・・・公衆衛生上・・・」「・・・衛生的に悪い・・・」など、かならず四文字か、五文字の熟語を用いていませんか。

なぜか、「衛生」の意味を質問されると、これを的確に理解、納得が得られるように応えることが素直にできない。

社会に出て38年間、衛生管理の仕事で、これまで理容所や美容所、浴場、旅館、など、などの営業施設の監視。また空気、飲み水など生活環境衛生関連で、人様に講釈や家庭生活で、いろいろなシーンで観念的に、衛生の二文字を深く認識することもなく、また考えもせずに、単に熟語で使っていたことを齢(よわい)60余歳にして初めて気づきました。

いま初デートのときよりも、深い恥ずかしさを覚えています。よくぞ衛生管理で禄を育んでいたものだ。「見ずして信ずる者これ幸いなり」...

ここで改めて、衛生を的確に、そして具体的に表現し、相手に伝えようとする思いは...「弱った魚は目で判る」の例えのとおり、ツーフィンガーでパソコン・マウスを不器用に操りながら、「煙草、色恋、友情を覚えた紅顔の美少年時代、獣医学を学ぶ折りに不思議に思うことも無く、気づかなかったのか」いま悔しく、豆腐頭の身の程を嘆いています。

貴方は衛生の語句を、どのように、理解し、認識していますか。

いま、「衛生」の語句の意味を問われて、貴方の心理状態を分析すれば、例えて言えば、蚊に踵を刺された時の。靴の中の水虫が痒くなった時の。想う人を口説く時の。また、うなだれ息子の...あのときのように、あせれば、あせるほどの苛

立つ事態と類似していませんか。

そこで、困った時の紙(神)頼み、「衛生」を広辞苑は「健康の保全・増進をはかり、疾病の予防・治療につとめること。」また大辞林は「毎日の生活に注意し、身の回りを清潔にして健康を保ち、病気にかからないようにすること。」と索引ができます。

ちなみに、衛生屋さんが、最も拠りどころしたい最新版の25,000円もする南山堂の医学大辞典に、なぜか、どうか、遠視のメガネに虫眼鏡をかませても「衛生」二文字を探すことができませんでした。

2「衛生」出生の秘密は

字は莊、名は周。南華真人と称して、現代で言うところの中華人民共和国の人です。その方の著作「莊子の庚桑楚篇(こうそうそうへん)」に、老子の内弟子で庚桑楚という男と、その孫弟子の南榮がいました。

この庚桑楚が語っている篇に、老子と南榮の問答に「衛生」出生の文字の記載があります。

このくだりを「莊氏を読む=後藤基巳著者」P70から、原文のまま抜粋します。

南榮曰く

「たとえば村里に病人があったとしても、ひとからみまわれて、自分でその容態を述べることができるくらいならば、まだ十分に治る見込みがございましょうが、私などは先生から「道」のお話を承っても、一向に迷妄がひらかれず、ちょうど薬を飲んでますます病気が重くなったような按配です。どうかおねがいがございますから、真の生命をとり衛るすなわち「衛生」の経(みち)をお説き聞かせてくださいまし。」

老子曰く

「うむ。「衛生」の経というのはな、よく純一のきをとり保ち、本然の性情を失うことなく、ト(うらない)などをからいでも凶吉の道理をわきまえて、分に随い足るを知り、己を守って人に牽かれず、累がなく無知無心で、あたかも嬰兒というものが、一日じゅう泣き叫んでいながら声の嘎れないのは、

純和の極みだからであり、一日じゅう手を握りしめていながら、硬く曲がってしまわないのは、その徳が自然に合するからであり、一日じゅう物を視つめていながら、まばたきをしないのは、心が外物かたより動かないからである。このように全く無心の状態で、どこに行こうとも何をしようとも考えず、すべての物事に随順して、並みのまにまに漂うがごとくあること、これが「衛生」の経なのじゃ。」

ながながと「衛生」の記述を抜書きしましたが、この「莊子の庚桑楚篇（こうそうそうへん）」に出生の秘密があるという、他の文献を見たので、持ち前の野次馬根性に加え、幼い日のお医者さんごっこで鍛錬した探究心。通勤経路にある本屋をめぐり歩きました。

最後にたどり着いた東京駅八重洲口から鍛冶橋に向い400メートル、5分くらいの距離に八重洲ブックセンターがあります。その4階の中国哲学書コーナーで、本書を手にとり、偶然に開いた70ページに探し求めた「衛生」の語句がありました。

そのときの気持ちは、世田谷三軒茶屋時代の木造校舎便所の落書き「…天にものぼるこちぞする」を久しぶりに思い出し味わいました。

話をもとします。

莊周氏は、医療や医事関係者ではありません。ゴルゴダノ丘で二人の強盗と共に、十字架上で30余歳の若さでご逝去あそばれたキリストさんよりも早く、紀元前4世紀後半に生まれています。

莊氏は、中国の戦国時代の道家思想の中心人物で、儒教の人為的礼教を否定し、自然の理法である道に従って、人間のさかしらである仁義を捨て、安心自由な生活を得ようとする方法を説き主張した人物です。

彼の思想主義は、わが国の現世代、特にヤング男女に受け入れられているように、思い感じています。

事例を挙げると、通勤の車内で、口紅やマスカラ、ファンデーション化粧に夢中な高校生やOL、また他人の視線も気にかけず、「サカリついた隣の猫」状態のラブシーン、など、おおく見かけることができます。

それを横目で、うらやましな…軍靴の響く星の下に誕生し、ギブミーチョコレイトの不幸な時代に育ち、今に至る、わが身を恨みたくなくなります。

これが本音かな？「しかし、いまの世は最高です」

3 わが国「衛生」の名付け親は

わが国の衛生行政は、徳川さんが仕切る江戸時代には、不逞の輩を取り締まり政権存続を主眼にする行政でした。今日のシステム誕生は1873年（明6）文部省に医務局が置かれて、医学教育、医務、薬務、衛生の事務機構が整備されたことですが、公式に衛生の事と始めとなります。

この事務の機構は、医制と呼ばれ、2代目の医務局長に就任した長与専斎氏が制度を起草し、医制度は1874年（明7）8月、東京・京都・大阪に発令されました。

これが、今日に及び至っている公衆衛生事業のスタート。

長与専斎氏が助産夫役で公用語に、はじめて「衛生」を誕生させ、その名付け親となりました。

氏は、制度の起草のうちに、欧米語の「健康」や「保健」を直訳し、用いても、イメージする組織の役割と、使命を的確に表現する名付けをすることができませんでした。

彼の心情は追い付け、追い越せと、欧米を超える国家づくりを目指していました。

彼は欧米語の直訳をそのまま使うことが、西洋かぶれの猿真似で面白くない。またプライドも許さない。ましてや、1713年（正徳3）江戸中期、6代將軍徳川家宣の時代、教訓書八巻にまとめて刊行された、貝原益軒著十訓著書「養生訓」からの「養生」引用も思案したが、しかし、この語句も、イメージする妥当な意思を表すものではないと、思い巡らす中で幼い日に学んだ漢学に「莊子の庚桑楚篇」の「衛生」を思いだし、その字面、哲学が、高雅で、更に言葉の響きも美しいので、「莊子の庚桑楚篇」で用いている趣意とは異なりますが、「Sanitation」「hygiene」を「衛生」と名付け誕生させて、127歳を迎えています。

身の老いと衰えを少しでも先に延ばそうとトレーニングジムに通っています。

ジム仲間で英語の得意なエゲレス人に「Sanitation」・「hygiene」・「Health」を用いる場面の言葉に関して尋ねたところ、さすが、エゲレスの人は違うなと感心しました。

「Sanitation」は排水に用いて、「hygiene」・「Health」は人の健康に関する例に用いるとのことでした。

ちなみに、電子式携帯用の英訳辞典で、両語句は、衛生と記載されています。

蛇足ですが「hygiene」は、ギリシャ神話に登場する、いわゆるWHOで定義するところの健康を絵に描いたような、ピチピチ美人女神の名前です。彼女のオトツチャンは医療の神様です。

昼寝枕代用のエゲレス語字引に、東京都と23区を結ぶ広報誌のタイトル「Sanitarian＝衛生学者・改良家」が記されています。

わが国は、神の国で、やよろずの万物霊長の神々がいいます。毎年、8月15日に太平洋戦争敗戦記念日に国内外の話題になる靖国神社は、九州の鹿児島や熊本、山口の友が言うところの先の対戦、西南戦争における戦死者を慰霊する神社である事が始めと聞いたが確認はしていない。どこかの国の首相に問い合わせた方が早いかな？

わが国の奈良に在するところの医王寺や薬師寺を除く、八百八万の神で衛生や健康の神様の名前をご存知の方は、ご教示ください。

4 名付けた背景は

医制度起草の背景には、1871（明4）年、岩倉具視氏が特命全権大使で政府首脳を率いて欧米に渡る使節に、長与専斎氏が随行して医療制度を調査しました。

その時に異国の地で「サニタリー」・「ヘルス」しばしば耳にし、また、ベルリンにおいても「ゲズンドハイツプレーゲ」

を耳にする機会が多くありました。が、彼は、さして深く気にもとめずにいたそうです。

「以下、独逸語はカタカナで表記します。その理由は、学生時代に教授の部屋を掃除することで、単位を取得した身です。それゆえ花横文字の原語記載はできかねます。」

長与氏は調査をすすめるうちに、これらの言葉が単に「健康保護」を意味するものでないことに気づき、そして、より調査を深めたところ、異国の行政組織において健康保護を担当する「サニテツウェーゼン」「オフィェントリへ、ヒゲエーネ」部署なる存在を知りました。

その部署の組織は、医学を基礎にして、理化・工学・気象・統計等を法務的に運用し、住民が日常生活を送るうえでの危害防止の措置と、福祉の向上を目指す事業を行う仕事をしていました。具体的な仕事の内容は、伝染病予防・生活保護・清掃・上下水道の整備・市街家屋の建築規制・薬品・染料・飲食物取締りなど、日常生活に関連する事柄を網羅する内容であったそうです。

この部署の内容は、現在の公衆衛生の概念とするもので、今日の保健所組織が担当している仕事といえます。

わが国で、「公衆衛生」の用語の登場は、1879年（明12）に刊行の、柴田承桂氏の訳「衛生概論上篇」の文中に用いられているそうです。（この資料募集中、謝礼無し）

明治4年の世相は、それまでの武士社会を頂点としたカースト制の崩壊で、お殿様に仕えていたサラリーマン武士の多くは、生活保護受給の資格該当者にあたる暮らしで生活困窮に喘ぎ、旦那や子供のためにと、花街に身を置く婦女子もいたそうです。

貧して窮した武士階級社会は、窮鼠猫を囓む例えの如くに、スタートしたばかりの政府を脅かす団体に変貌し、萩の乱や西南の役と呼ばれる政府軍の争いに展開します。

21世紀の今日、IT革命の掛け声真っ只中、世界に誇る戦争放棄の記載条文がある憲法9条、そして生存権、国の社会的使命がうたわれている憲法第25条、都内の各所の公園や隅田川堤でみかけることのできるブルーハウスの簡易テントの連年の社会状況に憲法25条と、現世の世相のギャップに、清少納言の「こそおかしけれ」をおぼえます。

5 名付け親の育ちと息子たち

長与専斎氏は医事行政家。初代の内務省衛生局長に就任。1838年肥前の国は長崎県で生まれ、号は松番。緒方洪庵氏に師事し、長崎でボンペ氏から西洋医学を学びました。

1871年（明4）に岩倉具視全権大使に随行し医療制度の調査と医制をまとめ、2代目局長の彼は1875年（明8）医学教育を文部省医務局に残して、医務、薬務、衛生の事務組織を内務省に事務移管して、同年7月内務省衛生局が発足しました。

それ以降に環境衛生営業関係施設の取り締まりの規制が厳しくはまりました。

その後、内務省衛生局の事務は、いまから62年前の1938年（昭13）大日本帝国陸軍が、かの地の婦女子の貞操を守

る理由の下に不法統治していた朝鮮国人の女子をわが国憲法で象徴とする赤子でたとえた兵の人身御供に仕立て上げ、中国に侵略し、軍国主義の軍靴の歩を踏み出しました。

この侵略の様相を単に日華事変と教科書に記されています。この最中に内務省社会局衛生局を母体に警察組織に衛生警察官吏が誕生し、1945年（昭和20年）米国指導の民主主義スタイルの時代誕生とともに、厚生省が創設されるまで63年間続きました。厚生省の「厚生」は、書経の大禹謨篇および左伝の中にある正徳利用厚生惟和からの引用で、衛生と経済を意味しているそうです。

1945年8月（昭20）太平洋戦争敗戦で、1946年（昭21）11月3日の「日本国憲法」公布。昭和22年5月3日施行、同年4月の警察制度改革まで警察事務で所管の環境衛生営業関係の事務は、厚生省所管になり規制から指導へと思考転換しました。

この厚生省もエイズ事件で時代使命を終わり、2001年（平成13年）労働省と統合されて厚生労働省に改められています。

蛇足ですが、長与専斎の二人の子息に関する情報提供します。

長男の長与又郎は、1877年東京で生まれ、病理学者で心臓・肝臓の研究者としての権威者でした。東京帝国大学医学部長から伝染病研究所長を歴任。昭和8年東京帝国大学総長に就任。その後、癌研究所を創設しました。1941年（S16）太平洋戦争の年に、あの世に旅立ちました。

弟の芳郎は、1888年に兄と同じに東京生れで、東京帝国大学を中退し小説家、戯曲家として活躍しました。「白樺」同人。人道主義作家として認められていました。

「白樺」廃刊後は、武者小路実篤氏や、志賀直哉氏らと「不二」を創刊しています。彼の小説代表作には、「竹沢先生と云う人」「青銅の基督」「わが心の遍歴」があげられます。1961年に兄の待つ世に旅立ちました。

6 衛生とは養生なり

この稿を起こすきっかけとなったのが「養生」という言葉です。

週末の金曜日、若き日の思いで探しに、神宮絵画館前の銀杏並木、黄金色の絨毯を敷いた枯葉の世界。この風景のノスタルジアは、講義をサボリ、三軒茶屋から玉電で、渋谷の道玄坂上の喫茶店「十字路」、50円のコーヒー、イベットジローやイブモンタン丸山明弘と称していた美輪明宏の「めけめけ」が耳奥に甦る楽しい小春日でした。

大勢の散策人が、黄色の落葉を靴底に楽しんでいました。「おからだに気をつけて養生ください」。「養生」の言葉を懐かしく、久しぶりに聞き、声に誘われると、美しく年をとっている婦人が、挨拶を交わしているシーンでした。

今日、若い人の会話で、「養生」を交わす挨拶を聞く機会がありません。建築・醸造の関係技能者間で用いられている程度で、死語に近い言葉となりました。

辞典で、衛生とは「健康の保全・増進をはかり・毎日の生

活に注意し身の回りを清潔にして、病気にかからないようにする」と要約することができました。また「養生」についても、広辞苑や大辞林で読みますと、衛生の意味に類似しています。

養生と衛生の文字をよくよく見てください。「養生」は「養い生きる」です。「衛生」は「衛（まもり）生きる」です。生きることは個人にかかわる事柄です。毎日の生活習慣に注意し、身の回りを清潔にして病気にかからないようにする思想が、養生にも、衛生にも、含まれているといえます。

従って養生とは、保健所関係者が熟語でいうところの「個人衛生」に該当する言葉ではと理解できます。さらに講釈を言うと、多数人（公衆）2人以上に衛生のみちを説くことを公衆の衛生といいます。

多数人の衛生を確保するための役所仕事を公衆衛生行政といい。また個人が病気にならないように予防ぎ衛って生きる、これを「予防の衛生」と称すことで、正解とおもいますが。あなたのご意見は。

講釈ついでに、近年、行政組織では、予防衛生と称する機会が少なくなりました。

その代わりに「保健衛生」の言葉が用いられ主流になっています。この背景としては、昭和57年老人保健法の仕事が、都道府県、政令市、特別区の仕事に位置づけられた時代から、保健衛生なる言葉が多く使われ始めました。

従前、老人の福祉や健康に関する事柄は保健所（予防課）と、都道府県、政令市、特別区の厚生部事業で行政が競合

していました。

戦後50年間は、特に伝染病の予防衛生でしたが、時代も変わると病気も成人病が生渇集看病と称され、病後のリハビリをも、寝たきりの人に対しても、命を保ち衛という、生きるものの命の尊厳に、行政が気づき、また経済効率を考え保健所統廃合の再生という美名に隠れ厚生省が検討を始めた時代、保健衛生の語句を耳にするようになったことを記憶しています。

7 おまけ

本稿執筆に当たって、味付の参考文献は、南江堂刊の総合衛生公衆衛生学と、本稿例示の辞典と哲学書、そして見てきたような己の嘘と、思いです。燃料は大福餅混じりのコレステロール混入のたぎる血潮です。スパイスは職に従事したプライドを振り掛けました。

最後まで、お読みいただき、おつかれさまです。ありがとうございました。

「諸氏、日々の摂生に努め、養生し、ご自愛の上、お達者にお暮らしの程、祈念、祈念」

参考、

- 1 挨拶で「元気」を使っています。

平安時代は(今昔物語)減気＝気の流れを減ずる＝ストレスを減らすこと。

江戸時代は(井原西鶴)験気＝気の流れを止めないこと。

(養生訓)元気＝気の循環を円滑に流すること。

「年齢÷2日＝接しても漏らさぬこと」

学会関連記事

第44回日本大学獣医学会が下記の通り開催されました。今回も昨年同様、角笛会総会との合同開催となりました。

学 会 長：佐藤 常男

事 務 局：渋谷 久

日 時：平成18年6月3日(土)

場 所：日本大学生物資源科学部湘南校舎

特別講演・企画

「時代の変革と動物病院経営」

山村穂積先生

(Pet Clinicアニホス院長、日大非常勤講師)

第45回日本大学獣医学会開催案内

日 時：平成19年6月2日(土)

場 所：日本大学生物資源科学部

神奈川県藤沢市亀井野1866

(小田急線「六会日大前」駅下車)

参 加 費：学会参加費 1,000円(学生無料)

問 合 せ：事務局

〒252-8510

神奈川県藤沢市亀井野1866

日本大学生物資源科学部

獣医病理学研究室(渋谷 久)

TEL&FAX.0466-84-3631

E-mail. shibuyah@brs.nihon-u.ac.jp

編集後記

本年度より角笛会報の担当となりました。投稿をしていただいた先生方にはお忙しいところ大変感謝いたします。同じ母校を卒業した私を含め皆様方のよりどころとして本会報が役に立つものとなるように微力ながら頑張りたいと思います。どうぞ支援のほどよろしく願います。

(2006年11月 鯉江 洋 平成2年卒)

